

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
指標名	排水施設(側溝・排水管)の設置	目標値		500	500	500	500
		実績(見込)値	m	480	225		
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）							
指標名	排水整備率	目標値		23.8	24.0	24.2	24.4
		実績(見込)値	%	23.5	23.6		
		達成率		96.3 %	96.7 %		
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
		達成率		%	%		

5. 事業評価

(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

排水整備事業は市民から多くの要望があり、予算の範囲内で緊急性・必要性を考慮し年次計画にて対応した

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	ますます必要性は高くなっている(または、緊急性が極めて高い)
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	行政以外には実施できない事業である
	手段の妥当性	A	妥当である	現在のやり方が一般的であり、特に問題はない
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	効率は徐々に高まっている(コストは徐々に下げられている)
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	広い範囲に対して便益が提供されており、偏りは見られない
有効性	成果の向上	A	上がっている	概ね目標水準に達している
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	ある程度進んでいる

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

予算が削減されていく中で、コスト削減に努めてはいるが、近年ゲリラ豪雨等により住宅地の冠水が増加傾向にある。また、他の事業に比べてコストが高いため、対応が困難である。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

水溜り箇所図の作成等の現状把握・分析

年々市道排水整備の要望が増加する中、より専門的な設計が求められるため、設計委託により対応していきたい。

6. 事業の方向性判断

評価主体	27年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続 (成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続 (成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)	整備箇所の把握に努めその箇所に応じた費用対効果を考慮し、最適な施工方法を選定してコスト削減、成果向上を図る。なお、人と金の拡充については、財政状況と出来る限り調和を図りながら進める。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。